

2023年3月20日

報道各位

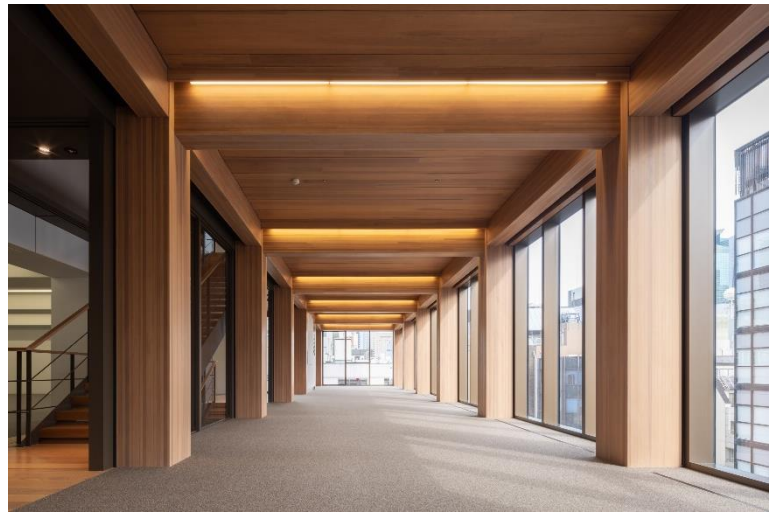
ジューテックホールディングス株式会社  
鹿島建設株式会社  
住友林業株式会社

## 木に包まれたオフィス「ジューテック本社ビル」完成 -みなとモデル二酸化炭素固定認証制度 最高ランク取得-

ジューテックホールディングス株式会社（社長：植木啓之 本社：東京都港区 以下ジューテック）が、グループ創業 100 周年記念事業の一環として建設を進めていた新本社ビルが完成し、本日から供用を開始しました。新本社ビルは国産木材を 207.3 m<sup>3</sup>使用するなど環境に配慮したビルで、鹿島建設株式会社（社長：天野裕正 本社：東京都港区 以下鹿島建設）が設計施工、住友林業株式会社（社長：光吉敏郎 本社：東京都千代田区 以下住友林業）が設計施工協力を担いました。



完成した新本社ビル



木造エリア内観

### 1. 国産木材を豊富に活用したオフィスビル

新本社ビルは、港区初の耐火木造建築物であり、みなとモデル二酸化炭素固定認証制度<sup>※1</sup>における最高ランク★★★を取得しました。建物全体の木材使用量は 207.3 m<sup>3</sup>、床面積当たりの木材使用量は 0.0424 m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>と、同制度における最高ランク基準である 0.010 m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>の 4 倍以上で、一物件あたりの木材使用量は港区で過去最大となります。持続可能な社会や木造普及への貢献を目的とした本計画での木材使用による CO<sub>2</sub> 固定量は 126.8t-CO<sub>2</sub> となります。これは 414 本分のスギが約 40 年間に吸収する量に値します。<sup>※2</sup>



### 【炭素固定量】



※1 港区内で建てられる建築物等に国産木材の使用を促すことで、区内での二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）固定量の増加と国内の森林整備の促進による CO<sub>2</sub> 吸収量の増加を図り、地球温暖化防止に貢献する認証制度。（参照：港区 HP）

※2 36～40年生のスギ人工林1,000本分により、約302トンのCO<sub>2</sub>を吸収すると仮定。CO<sub>2</sub> 1トンの体積：509m<sup>3</sup>（標準状態：0℃・1気圧）

## 2. 純木質耐火集成材「FR ウッド®」※3

FR ウッドは、難燃薬剤を含浸させたラミナ材を使用しており、木材に石こうボード等の無機系を使用して耐火性能を確保するメンブレン工法と比べて、木材使用量を約 1.3 倍にすることができます。今回の導入にあたり、今後の木造建築のさらなる展開、ひいては木材利用のさらなる拡大に向け、以下に取り組みました。

- ・コスト合理性の追求

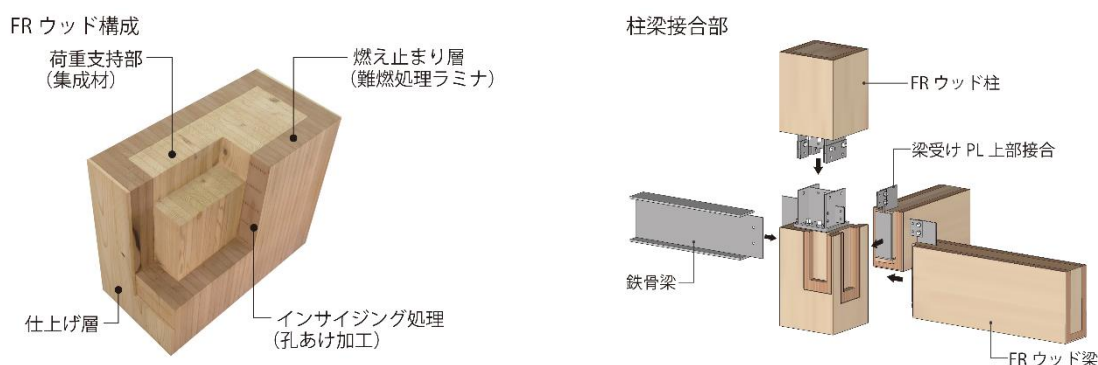
大臣認定を再取得し、燃え止まり層の難燃処理ラミナに杉の節あり材の使用を可能に

- ・仕上げ層の樹種を選択肢増

これまで決められた樹種のみを使用していたが、様々な樹種が選択可能に

- ・標準的な施工方法の確立

鹿島建設が開発した鉄骨造同様の建て方・精度が確保できる柱梁仕口を採用



※3 「FR ウッド®」は、鹿島建設の登録商標。鹿島建設、国立大学法人東京農工大学、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所、有限会社ティー・イー・コンサルティングの共同開発。鹿島建設、住友林業、有限会社ティー・イー・コンサルティング、三井住商建材株式会社にて大臣認定取得。住友林業の登録商標は「木ぐるみ FR®」

### 【工事概要】

発注者：	株式会社ジューテック
計画地：	東京都港区新橋 6-3-4
構造：	鉄骨造 一部木造
用途：	事務所
敷地面積：	739.59 m <sup>2</sup>
建築面積：	575.09 m <sup>2</sup>
延床面積：	4,877.87 m <sup>2</sup>
階数：	地下1階、地上8階、塔屋1階
建物高さ：	38.08m
設計監理・施工：	鹿島建設株式会社
設計施工協力：	住友林業株式会社
工期：	2021年7月～2023年2月